

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階ユニット)

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪市旭区赤川1-3-24		
自己評価作成日	令和4年12月9日	評価結果市町村受理日	令和5年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【楽しむ】をコンセプトにしている為、毎月行事計画に沿ったレクリエーションを実施し、夏・冬には大型レクを実施している。また、コロナ禍で外出の機会は減っているが、感染対策を徹底した上で少人数での散歩等を実施している。面会に関しても同様に感染対策を実施し、対面・WEBの2種類で対応している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>株式会社ジャパンメディケアネットが運営法人である「つながり城北」は平成30年1月に開設した4番目のグループホームであり、来年度で5年目を迎える。建物は「家」という形にこだわり事業所名を表示していない。近隣住民の意見で窓にステッカーを検討している。系列施設からこの夏に、新しく就任した管理者は利用者・家族の意見要望を傾聴し、本来の地域密着型である場所(事業所)としての役割を職員と共に見直し改善等に取り組んでいる。コロナ禍で感染状況により家族の面会制限が長引く状況で大阪府の指示に従い、感染予防対策を講じて予約制の面会を開始している。利用者家族の要望に応じて、携帯電話やPCネットでの毎日献立配信や、遠方の家族に生活の様子を動画撮影し会話できる支援を行い、親子の絆確認と双方の安心感を提供している。職員研修も定期的実践しケアの質向上に向けて研鑽を積んでいる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示はされており、共有しているが実践できていないと言えない。地域密着型サービスについての勉強会などを実施しコロナ後の実践につなげていけるよう考えている。	事業所の理念を各フロアに掲示し、唱和はしていないが全体会議やフロア会議で共有の確認を行っている。各ユニットの目標を設定し、1階フロアは「安心・安全で安らぎのある施設を作ろう」を意識してケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に散歩に行き、地域の方と交流を図れるよう取り組んでいる	地域の情報は自治会に加入し町会長が地域行事の知らせやチラシを持参され、電話でも情報交換している。今年は「夏の神輿」があり玄関先まで来て披露して頂き、利用者と共に楽しんでる。地域の方々とは近隣散歩や向かいの公園など散歩時には挨拶を交わしている。以前のボランティア・実習生・体験学習の受け入れは自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染状況にて現在地域の人々に向けての活動は出来ていないが今後実施していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染状況にて書面配布を行っているが今後は運営推進会議を開催し意見交換しサービス向上に向けて取り組んでいきたい	運営推進会議はコロナ禍の状況で書面開催を余儀なくされている。家族アンケートをとり意見要望を収集し事業所の活動を細かく記載し利用者家族に報告している。意見は面会時や電話とラインで聴き、会議議事録は会議メンバーと全家族に郵送し、推進会議の議事録は外部評価結果と共にファイルで玄関口で開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は施設長が取り組んでいる	旭区役所介護保険課などへは介護保険関連書類など持参し、顔合わせの挨拶をして情報交換している。西部包括支援センターとは主に利用者の事や地域で困っている人などの情報交換している。介護保険連絡会・GH協議会、勉強会等は今後関係施設、事業所と交流を深めて取り組みを進めて行くこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を開催し、話の場をしっかりと作り身体拘束についての理解を深めていく必要がある	「身体拘束適正化の指針」を基に3ヶ月毎に会議を行い議事録を全職員に回覧しサインをもらい正しい理解と意識付けを徹底している。次回12月20日を予定している。研修会を年2回実施し、また年間の内部研修では資料配布による勉強会でスキルアップを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を開催し話の場をしっかりと作り身体拘束についての理解を深めていく必要がある		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加して頂き理解を深める必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際説明している。その他不明点は都度説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不明点などあれば都度対応検討している	毎月の便りで利用者家族の意見要望を聞き、食事の「献立内容」が知りたい家族の要望に応え、閲覧できるようオンラインでメニューを毎日公開している。入居者の様子が知りたいとの意見に個別に写真を撮り郵送している。毎月の便りに写真も添付して、遠方で面会に来られない家族には生活の様子を動画を撮って送り、ラインで利用者と話をしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で話し合い検討している	全体会議を毎月第3水曜日に行い、フロア会議も行っている。職員の個人面談も6ヶ月ごとに質問形式で行なって意見を法人代表と検討している。職員の意見で管理者の出勤状況がわかるように表示している。ケアに関して利用者の散歩や外出がコロナ禍で出来ない事の意見が多く、少人数でも実施して気分転換を図り、生活リハビリを始めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロア管理者が勤務を作り、代表者に勤務状況をや勤務態度などを報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに積極的に参加するよう進めて頂いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在書面開催で研修など実施しているが今後は集まり開催していき意見などを聞きたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が本人らしい生活を送れるように要望や困っていることをその都度聞きサービスを提供していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望や不安に思っていることを聞きより良いサービス提供を行ってけるよう取り組んでいく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にこれまでどのような生活を送られてきたかこれからどのような生活を送っていきたいか聞き、より良いサービス提供に努めていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人さんに出来ることは継続して続けられるように支援していく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、家族様の意見や希望を聞き、希望に沿った対応を行い関係を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況により時短ではあるが面会を実施している	面会は予約制でパーティション越しの実施している。ラインのウェブ面会も可能な家族や親戚などから電話があり取り次ぎ支援をしている。友人や知人からの手紙など今はないが、家族からは手紙が届けば返信など支援している。年賀状など出したいと希望があれば個々に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係性を維持できるように合同レクやケーキ作りなど実施し支援していく		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	フロアでは退去された方が居ないので今後退去される方が居れば情報提供などをしていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望に沿って対応している	日常ケアを行いながら、利用者一人ひとりと会話を通してその人の意向や思いを聞いている。普段は食べ物の好みなどが言われる事が多い。意思表示が把握困難な場合は表情やしぐさを観て、察することや家族に聴いて本人の意向に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の閲覧やご本人、家族様にどのような生活を送られてきたか聞き、これまでの経過を把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化など観察し状態に応じて出来ることへのサポートに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合い本人が安心して暮らしていけるようにケアしている	長期ケアプラン1年・短期6カ月間とし、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。状況状態が変化した場合には家族に電話で説明し意向要望を伺う。また、状況により医師・看護師等の意見を聴き、管理者・ケアマネジャー・フロアスタッフで家族意向をふまえ担当者会議で検討し再度ケアプランを作成、利用者家族に了承を得て再交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を詳細に記録するようにし情報を共有し見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ケア方法を検討する		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染状況にて実施できておらず、今後実施予定		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿って対応している	入居時に本人・家族等に説明のうえ、納得と同意を得て全員が協力医を選択している。協力医療機関の病院から内科医が毎月3回・精神科医が1回、歯科クリニックから希望者が週1回の訪問診療を受けている。常駐看護師が利用者の健康管理を担当し、さらに病院の看護師とも契約し、24時間オンコール体制をとり、安心できる医療対応をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報連相を実施している 状態の変化の確認・報告		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎月往診に来ていただいております日々状態の変化を見て頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針について、現在は出来ておらず状態の変化に応じて話し合いをしてきたい	入居時に家族が希望する限り看取りを行う指針を説明し同意を得ている。利用者の終末期には、医師が家族等に説明し、同意が得られれば医療関係者、管理者、計画作成担当、看護師や職員が看取りケアに入るが、開設以来(4年半)実例はない。看護師が毎年研修会と随時の勉強会で、看取りの経験がない職員に心構えとケアを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などに参加して頂き、意識を高める必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自のマニュアルに沿って対応する	淀川に近いので、浸水災害が懸念されハザードマップを参考に安全な3階への垂直避難を行う。今年既に8・12月の2回、自主避難訓練等を実施し、火災時には1階の建物両側空き地への一次避難を予定している。各フロア1～2名の車椅子利用者には、職員が協力して避難する計画である。備蓄は、レトルト食品や飲料水を2～3日分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な口調で接するように心がけている	利用者の羞恥心やプライバシーを損なわない接遇を、毎年研修等で職員に徹底している。使用中のトイレ・浴室や居室の扉は必ず閉めること、特に居室へのノック励行を徹底するようにしている。声掛けは、誰にでも「～さん」で統一している。不都合なことがあれば、管理者が注意するほか、職員同士で注意し合える職場環境を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩等、その日の状態や希望に沿った対応をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩等、その日の状態や希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方には自己にてファッションなど決めて頂いたり、介助が必要な人は同じ衣類に偏らないように工夫している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお皿選び等、工夫している 現在調理はスタッフで行っているが、洗い物やお皿拭きは一緒に行っている	大手業者から下処理された冷凍食材が毎日届き、業者のレシピに基づき各フロア台所で職員が交代で調理している。利用者の一部は、調理補助や後片付け等に参加している。毎月のイベント時にも、業者からの食材で職員が調理した特別食を利用者が一緒になり楽しんでいる。事業所で利用者に人気の一つが「カレー」で実に家庭的といえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を活用し、把握・調整し水分量や食事量が少ない方にある程度確保していただけるよう促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを実施し、自立の方でも歯間に汚れが残っていないか確認している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめなトイレの声掛けや運動後にトイレに行く習慣作りを行っている	尿意等を伝えることができ自らトイレで排泄可能な自立者は比較的多く、昼間は布パンツが利用者全体の約1割、リハビリパンツが7割(内、半数がパッド併用)、残り2割がおむつ使用である。夜間は1時間ごとに職員が巡回し、トイレ誘導やパッド交換など排泄支援を行っている。ポータブルトイレ利用者も1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤などに頼らず、自然排便して頂けるような運動に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日のベースはあるが、本人の状態や希望をききその都度検討している	各フロアとも手すりを備えた一般浴槽で8~9割の利用者が一人で風呂に浸かっている。残りは二人介助で湯船での気持ち良さを楽しんでいる。週2回が基本だが、体調に合わせて臨機応変に対応している。同性介助の希望者は1名のみである。好みの入浴剤を楽しむ利用者もいる。職員は毎月利用者が楽しめるバスタイムを現在検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	普段から体を動かしたりして頂き、昼食後は仮眠をとっていただいたりその都度で対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録の薬剤情報を閲覧し副作用や用量など把握していく		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人ができることや、レクリエーションを実施し生活を向上していただけるよう取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩を実施しているが、遠方への外出は現在実施できておらず今後実施していきたい	コロナ禍ではあるが、マスク着用で往來の少ない時間帯に近隣の公園への散歩やメガネを購入したい利用者の買い物に職員が同行したこともある。家族等との面会は、各フロアのエレベータホールにおいて抗原検査陰性、マスク着用条件で短時間に限り継続している。以前のように車での万博公園等への遠出が再開できるのが待ち遠しい状況である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが飲み物代やほしいものを自由に買える現金を所持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染状況にて時短での面会を実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同作品を飾ったり毎日の掃除、居住空間の整備に努めている	食堂・居間は陽光が入り明るく温かい空間で、共用空間には、職員と利用者手作りの壁面飾り、現在は折り紙で作ったクリスマスツリーが飾られており、利用者は季節感に触れることができる。利用者の書道作品(縦長)も飾られている。コロナ感染防止のため換気を行い、清掃は多くの女性利用者が率先して職員と共に行い、快適な空間を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同レクを実施したり、一人で落ち着く時間などを各々の思いで生活している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物を使用し家庭のような生活を送って頂けるよう実施している	居室には、予めベッド、エアコン、天井照明、洗面台、防災カーテンが備え付けられ、利用者はダンス、キャビネット、テレビ、レコードプレーヤーや家族写真など馴染みのものを持ち込み、住み心地良い自分の部屋を創っている。居室の清掃も利用者が行う場合が多く、職員がチェックするなど清潔な居室の維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った空間を作り安全に暮らして行けるようサポートしている		